

# 私たちには「建国記念の日」に反対します

私たちは、1967年に「建国記念の日」が強行されて以来、毎年、この日の持つ危険な役割を内外に訴え、「建国記念の日」不承認の運動を続けてきました。

「建国記念の日」は、①紀元前660年に「神武天皇」が即位したといういは歴史的事実に反する、②初代天皇の即位をもって日本の建国とするいは、階級支配を正当化し、憲法の主権在民の精神に反するものであり、特定の歴史観の押しつけである。③この日は戦前は「紀元節」として侵略戦争肯定の方向に国民を動員する役割を果し、多くの犠牲者を出した。④戦後の一連の反動攻勢の一環として、侵略戦争を反省せず、現憲法の改定を意図する自民党政府によって制定が強行された日である。等の理由から、私たちはこの日を「祝日」として承認するわけにはいきません。

「建国記念の日」が強行制定されてからの政府の反動攻勢には驚くべきものがあります。制定直後にも早くも、文部省は小学校での神話教育復活を打ち出し、68年の学習指導要領改定においては神話を扱うことの「重要性」を明記しています。さらに続いて68年秋に「明治百年祭」が設定され、一大思想動員がなされました。この際政府は、「明治百年を契機として、めざましい近代国家発展の源となつた明治の国民的エネルギーを再確認し、新しい意識を目ざさせ、日本の第二の飛躍に役立たせたい」と述べ、自民党に至っては、「明治百年を契機として、さらに新しい歴史学を創造」し、「占領史觀からの脱却をはかり、思想的混亂を一掃し」「人間愛と公徳心、祖国愛と民

族精神、または防衛意識」を回復し、「日本の安全と平和のための日米安保体制について深く国民の理解をもとめ、革命勢力の後退、さらにお粉碎をめざす（同党'68年度運動方針）、としています。それ以後も、靖国神社問題、「君が代」国歌化、元号法制定など、一連の天皇の政治利用と過去の侵略戦争肯定のための思想動員がなされ続けられています。最近顕著いのは教育を利用してこれらの策動が強められつつあることです。教科書検定問題や教育臨調の問題もその延長線上にあることは明白です。

ところが既に共通一次試験の導入で歴史を学ばない生徒がふえており、今日では「2・11」の意味を知らない京大生が多くなっています。また、設置が予定されている放送大学における歴史学の講座がなく、歴史学的認識能力を学生が身につけないようにならうという姿勢が露骨に表われています。このような事態の中においては、私たちは一層の学習を深め、普及していくことが必要だと考えます。そのためには、2月10日昼休みに学習集会をもちます。以下の2つの報告を予定しておりますので、皆さんの御参加をお待ちしています。

## ▷ 文尊部国史学大学院会

「平安建都1200年構想の現状」

## ▷ 教育学部大学院会

「(未定)」教科書・教育臨調・高校三原則をめぐって

第18回「建国記念の日」不承認京大集会

2月10日(金)昼12:00~1:00 於 法経5番教室

第18回「建国記念の日」不承認京都府民集会

2月11日(土) 1:00~4:30 於 京都教育文化センター

第18回「建国記念の日」不承認京大集会実行委員会